

2025年度第1回「自然科学系アーカイブズ研究会」

テーマ：アーカイブズ活動と「もの」の保存

プログラム

会場：KEK（つくばキャンパス） 2号館1階 会議室大、オンライン（Microsoft Teams）

1日目（2025/7/30・水）

13:20	～	13:50	受付開始、PCセッティング（オンライン接続確認）
13:50	～	14:00	開会のあいさつ KEK広報室長・史料室長 勝田敏彦
午後の部① 座長：菊谷英司			
14:00	～	14:40	【招待講演】自然科学系アーカイブズのコンテンツ 国立極地研究所 名誉教授 神田啓史氏
14:40	～	15:20	【招待講演】国立天文台 文化財の保存と活用 国立天文台 広報普及員 根本しおみ氏
15:20	～	15:30	休憩
午後の部② 座長：平田光司			
15:30	～	16:00	KEK史料室の「もの」資料 KEK史料室 菊谷英司
16:00	～	16:30	核融合アーカイブ室の現況について 核融合科学研究所教授、核融合アーカイブ室長 村上泉氏
16:30	～	17:00	ポリオ(小児麻痺)治療に用いられた「鉄の肺」と「ポストポリオ症候群（PPS）患者の手記集」を保存し、後世の有益な活用資料にする 東京慈恵会医科大学 加藤茂孝氏
17:30	～	19:00	懇親会

2日目（2025/7/31・木）

8:50	～	9:00	PCセッティング（オンライン接続確認）
午前の部① 座長：神田啓史			
9:00	～	9:30	KEK史料室の現況について KEK史料室 高岩義信
9:30	～	10:00	長期的な災害資料の収集とデジタルアーカイブ構築の課題と展望 防災科学研究所 自然災害情報室 竹口明希氏 防災の寺子屋：利用者自身の学びに応える防災教育コレクションの活用 防災科学研究所 自然災害情報室 田中亜紀子氏
10:00	～	10:15	休憩
午前の部② 座長：久保 伸			
10:15	～	10:45	研究者資料アーカイブズにおける研究者ネットワークに関する資料の階層構造と編成記述： 核融合アーカイブ室所蔵「大河千弘氏資料」を事例として 核融合科学研究所 核融合アーカイブ室 菱木風花氏
10:45	～	11:15	手書き資料のアーカイブ化 九州大学 名誉教授 中山正敏氏
11:15	～	11:25	今後に向けて
11:25	～	11:30	閉会のあいさつ
11:30	～	13:00	昼休憩
13:00	～	14:00	KEK史料室常設展示見学会（菊谷 説明）

【概要】

国立極地研究所 名誉教授 神田啓史氏

タイトル：自然科学系アーカイブズのコンテンツ

概要：アーカイブは一般に文書・史料類、あるいは文書館などと訳されるが、アーカイブと文書類・史料類は意味が異なるように思える。アーカイブの広い意味を解釈して、極地研のアーカイブのあり方を考える。

国立天文台 広報普及員 根本しおみ氏

タイトル：国立天文台 文化財の保存と活用

概要：国立天文台には10の登録有形文化財と2つの重要文化財がある。これらの文化財のうち、動態保存ができている第一赤道儀室と太陽塔望遠鏡は、かつて実際に観測施設として動いていた当時の様子を再現して見せることができる。動態保存を続けることには困難も伴うが、見る人に与える感動は大きい。国立天文台の文化財という「もの」の保存と活用についてを中心にお話します。

KEK史料室 菊谷英司

タイトル：KEK史料室の「もの」資料

概要：KEKの史料室の保管資料は文書が主ですが、文書以外の所蔵品も何点かあります。今回の報告ではこれらについて由来などを解説します。また、研究会の二日目午後には所蔵品のうち展示されているものについての実地見学を予定しています。

核融合科学研究所教授、核融合アーカイブ室長 村上泉氏

タイトル：核融合アーカイブ室の現況について

概要：核融合科学研究所核融合アーカイブ室の現況を報告する。特に昨年度構築したデジタルデータベースについて紹介する。

東京慈恵会医科大学 加藤茂孝氏

タイトル：ポリオ(小児麻痺) 治療に用いられた「鉄の肺」と「ポストポリオ症候群（PPS）患者の手記集」を保存し、後世の有益な活用資料にする

概要：日本では1950年代から1961年に流行して、大きな社会問題となったポリオ関連の資料の保存が十分ではない。治療に使われた米国提供の「鉄の肺」は今や日本には2台しか保存されていない。また、一旦片付いたかに見えたポリオが、患者の高齢化に伴って、ほぼ全員に健康だったはずの四肢の麻痺が出現して患者に2重の災禍を与えることが後に判明した。このPPSの発見とその情報普及の不足により、患者や医療者にリハビリなどの遅れを産んだ経過の記録、例えば「ポリオの軌跡」（2025年発行）の手記集などの保存・周知が望まれる。これにより、今後発生する新興感染症への教育・啓発・対応・備えに活用される事が期待される。

KEK史料室 高岩義信

タイトル：KEK史料室の現況について

概要：KEK史料室のこの1年間を振り返り、日常業務を含むその活動およびめばしい変化について紹介する。

防災科学研究所 自然災害情報室 竹口明希氏

タイトル：長期的な災害資料の収集とデジタルアーカイブ構築の課題と展望

概要：防災科学技術研究所自然災害情報室では、1963年の創立以来、災害・防災関連資料（災害記録、写真、報告書、地図等）を収集・所蔵し、デジタル資料の所蔵は80万点を超えています。従来の紙媒体資料に加え、デジタルアーカイブの構築を進めることで、記録の長期保存、検索性・利活用性の向上を目指しています。特に、災害発生直後から復旧・復興に至る現場資料やWeb上の情報は、防災研究・政策立案に不可欠でありながら、迅速な記録化・保存がなければ消失の危険があります。そこで当室では、メタデータの設計、デジタル化工程の最適化、他機関との連携にも取り組んでいます。本講演では、災害資料のデジタルアーカイブ構築に向けた具体的な実践事例、現場で直面する課題（著作権・メタデータ付与等）、今後の展望について紹介します

防災科学研究所 自然災害情報室 田中亜紀子氏

タイトル：防災の寺子屋：利用者自身の学びに応える防災教育コレクションの活用

概要：防災科学技術研究所自然災害情報室では、1963年の創立以来、防災・災害に関する多様な資料を収集・所蔵し、紙媒体資料としては約12万点を所蔵してきました。そのうち2003年以降は、一般向け書籍を中心とした「防災教育コレクション」を構築し、現在約3,900点の現物資料を所蔵しています。私たちは、本コレクションを「防災の寺子屋」として位置づけており、学びたい人が、必要なときに、必要なことを学べるコンテンツを提供することを目指しています。本講演では、防災教育コレクション活用の実践事例、利用者ニーズに応じた選書や提供方法、現物資料の価値と課題（保存・運用・アクセス支援）について報告し、今後の地域連携や専門図書館の果たす役割について考察します。

核融合科学研究所 核融合アーカイブ室 菱木風花氏

タイトル：研究者資料アーカイブズにおける研究者ネットワークに関する資料の位置づけ：核融合アーカイブ室所蔵「大河千弘氏資料」を事例として（仮）

概要：大学や研究機関、博物館において収集が増加している研究者資料アーカイブズの多くには、その研究者に送付された書簡や論文の抜刷・別刷、学会や研究会などの講演録や総会議事録といった研究者ネットワークに関するタイプの資料が含まれている。これらのタイプの資料は、研究者本人の研究活動に関するものであるが、研究者本人による作成物ではないため、アーカイブズの構造のなかでは研究に用いられたノートや論文原稿などとは区別して位置づける必要がある。現状、これらのタイプの資料についてのアーカイブズ学的な位置づけに関する議論は多くはなく、多くのアーカイブ機関で整理区分や公開判断に迷いが生じていると考えられる。核融合アーカイブ室では、「大河千弘氏資料」に含まれる研究者ネットワークに関する資料に着目し、他機関における先行事例を整理した上でアーカイブズ学的な階層構造と編成記述を与える研究を行った。本講演では、その成果を報告するとともに、研究者ネットワークに関する資料に多い、冊子やコピー、量的な点などの「もの」としてのマテリアルの性質の把握や保全の課題を踏まえて、アーカイブ機関としての扱いについての新たな論点を提示する。

九州大学 名誉教授 中山正敏氏

タイトル：手書き資料のアーカイブ化

概要：物性史、物理学者運動史の中には、手書きのものがある。また、個人間の書簡もある。これらのアーカイブ化の意義、および技術的問題について話す。